



# バンコク便り



## 1. はじめに

10月31日に山形県タイ友好協会（事務局：荘内銀行）の定時総会を開催いたしました。今年の日タイ修好135周年となり、シントン駐日タイ王国特命全権大使を山形にお招きし、「コロナ後の日タイ交流への展望」と題したご講演をいただきました。総会後には3年ぶりに夕食交流会が開催されるなど大盛況のうちに終了することができました。

2022年度の事業計画においては、タイ人インフルエンサー招聘による観光情報発信や新型コロナウイルス収束後に第2回訪タイミッション派遣などが承認され、幅広い分野において、両国の交流の架け橋として取り組んでまいりますので、引き続きご協力・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



2022 年度定時総会

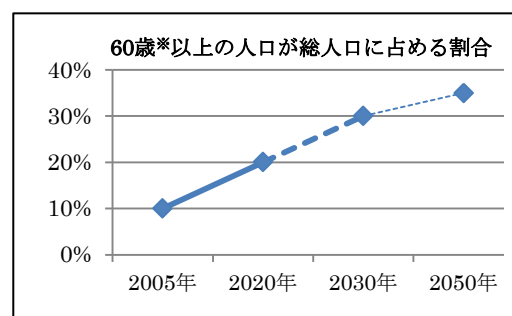
## 2. 現地ビジネス情報（タイにおける医療産業について Vol. 1）

今回から複数回に渡って、タイ国内で注目産業の一つとなっている医療分野についてレポートいたします。一回目の今回は、医療市場の全体像をつかむため、タイの人口動態・政府方針について報告いたします。

ASEAN 諸国は若い労働人口が多いというイメージがありますがタイでは高齢化が社会問題の一つとなっています。2021年の段階でタイの人口約 6,800 万人のうち 32%が 24 歳以下ですが、60 歳以上の割合は 20%、2050 年には 30%を超えるとされています。

タイでは 1970 年代に、子供一人当たりの医療・教育の支出増加を目的に、政府が産児数を抑制する家族計画を奨励していましたが、その結果として 2000 年代に入り高齢化が始まり、国内の医療・介護産業の需要が高まりこととなりました。医療産業が注目される理由の 1 つが医療ツーリズムの拡大です。国際医療機能評価機関（JCI）による認証を受けている病院数が 50 ヶ所と日本（約 20 ヶ所）よりも多く存在しています。対応言語もタイ語・英語は勿論のこと、日本語・中国語・アラブ語・ドイツ語他、複数言語での対応が可能で、海外からの受け入れ態勢が整えられています。

タイ政府は 2016 年に「医療ハブ戦略 10 年計画」を策定し、より高度な医療産業のエコシステムの構築を目指し、各医療機関に国際的な認定の取得を推奨するとともに、医療サービス事業者への投資インセンティブの提供を掲げた結果、2019 年の医療ツーリズム訪タイ者は 400 万人を超えました。しかしながら、コロナ禍の 2021 年には数万人の規模までに落ち込み、その復活に向けて医療ビザの発行を開始しています。高齢化による医療需要の高まりや、医療ツーリズムによる医療技術の高度化、医療産業のエコシステム構築を目指すタイ政府の計画によって、今後の医療市場の拡大が見込まれます。日系企業にとっては、先端医療機器やヘルスケア商品などの販路拡大の可能性が広がり、多くの企業が注目する市場になっています。



※タイでは 60 歳以上を高齢者としています

（グラフは、NC Biz Center 作成）

## 3. 現地トピックス（乾季入り！観光ハイシーズン到来！）

タイ気象局は 10 月 29 日より乾季に入ると発表しました。タイは自由な渡航が再開しているため世界中から観光客が訪れることを期待しています。玄関口となるスワンナプーム国際空港の入国審査は大混雑しており、人員増員などの対策が取られているようです。11 月 16 日からは APEC（アジア太平洋経済協力会議）開催により、一部区間の通行止めなど混雑が予想されています。一方、日本へのインバウンド客も増えつつあり、10 月末にはタイから約 80 名の団体が山形県内各所や東北を巡り、久しぶりの日本観光を楽しむなど、往来の活性化が期待されます。



来形団の懇親会 in 酒田

【本件に関する連絡先】 荘内銀行営業推進部 地方創生室 軽部・齋藤 023-626-9050